

被災地からの報告③ 子どもたちは未来の設計者 赤い靴、白い靴

鈴木利典



ムカデ競走。赤いくつは最初の支援物資です



スクールカバン。校章や形が違っていても大切に使っています



ヘルメット。自転車置き場には色違いのヘルメットが置かれています。自転車置き場には色違いのヘルメットが置かれています

1周150mのトラックで体育祭が行われました。身体の大きい中学生はトラックからはみ出しそうに走ります。その体育祭、4人と、白、赤、白、赤と、紐で結ばれた足の靴色が違います。開会式、閉会式の整列や下駄箱を見るとさらにはつきります。本校の生徒は、その

生徒は赤い靴と白い靴を履いてます。赤い靴は震災直後に、白い靴は後からいただいた支援物資です。カバンに不平不満を言う生徒はひとりもいません。自転車置き場に目をやる生徒はひとりもいません。授業中に雨が降ると、サドルやハンドルが濡れた自転車が主の下校を待つことになります。仮設校舎での生活、改善しなければならぬことは山積

カバンが、どこかで誰かが3年間背負った大切なカバンであることを知っています。カバンに不平不満を言う生徒はひとりもいません。授業中に雨が降ると、サドルやハンドルが濡れた自転車が主の下校を待つことになります。仮設校舎での生活、改善しなければならぬことは山積

テッカーを貼り、きちんと防犯登録を行ってから、生徒に届けられました。自転車置き場には、まだ屋根がありません。授業中に雨が降ると、サドルやハンドルが濡れた自転車が主の下校を待つことになります。仮設校舎での生活、改善しなければならぬことは山積

本校の生徒は、トラックが小さくても、靴の色が違っていても一生懸命走りまわっています。カバンの形が違っていても、元気に登校します。長らく、中学校で、生徒の靴や靴下の色に目を光らせて、Tシャツにフリン

せと掃除をする生徒を見てみると、これまでの自分が恥ずかしくなります。東日本大震災が、日本人の働き方や生き方を変えようとしていると言われています。同じように、被災地の中学生が、これまでの教育のあり方を問いかけているような気がしてなりません。本校の生徒は、教育に本当に必要なものは何かを、それが、靴の色や、立派な校舎やではないことを、語りかけているような気がしています。

トがついていないとか、生徒を指導してきまして、靴の色やカバンが違っています。本校には毎日のように全国から支援者が訪れます。帰り際、脱ぎかけた「附属小学校」を意味する「附小」と書かれた水色のスリッパについて説明し、本校が足

【すずき としのり】

昭和57(1982)年、岩手大学工学部卒。陸前高田市立広田中学校、同第一中学校、大槌町立大槌中学校、大船渡市立越喜来中学校と沿岸被災地区に4校14年勤務。岩手県立総合教育センター情報教育室長、同企画担当総括を経て、本年4月、大槌中学校長に就任。昭和34(1959)年生まれ、53才。



元から支援されていることに對し、改めて感謝申し上げます。お見送りさせていただきます。